

疥癬(かいせん)と薬

疥癬とは？

疥癬とは、ヒゼンダニ(疥癬虫)というたいへん小さなダニが人の皮膚に寄生して起こり、かゆみを伴う皮膚の病気です。

疥癬は、ほとんどの場合直接肌と肌が長時間接触することにより感染します。高齢化社会の中、施設での集団生活をする高齢者が増加し、疥癬の感染の広がりも多くなっています。

疥癬の種類と症状

疥癬には、通常疥癬と角化型疥癬の2つのタイプがあります。

約1～2ヶ月の潜伏期間(症状のない時期)を経て、かゆみ、赤い発疹などの症状が現れます。手のひらなどには、特徴的な「疥癬トンネル」とよばれる皮疹ができることがあります。これは、ヒゼンダニのメスが、交尾後人の皮膚表面の角質に潜り込み、掘り進みながら卵を産み付けていくためにできる皮疹です。

角化型疥癬は、重症型の疥癬で、ヒゼンダニの寄生数も桁違いに多く、感染力も強いです。直接肌に触れなくても、皮膚が角化し、はがれ落ちた皮膚のかけらからも間接的に感染してしまいます。

疥癬の治療薬の一部を紹介します。

①内服薬:イベルメクチン

(商品名:ストロメクトール®錠3mg)

【作用】

ヒゼンダニなどの寄生虫が麻痺を起こし、死に至らせる(殺虫作用)

【用法・用量】

体重1kgあたり約200 μ gを単回(1回)経口投与。必ず空腹時に水で服用する。

【注意事項】

意識障害があらわれることがあるので、自動車の運転、機械操作に従事する場合は注意する。

【副作用】

肝機能障害、そう痒、悪心、血小板減少、意識障害、中毒性表皮壊死融解症、等

②外用薬:フェトリン

(商品名:スミスリン®ローション5%)

【作用】

ヒゼンダニなどの寄生虫の神経伝達を遮断することで死に至らせる(殺虫作用)

【使用方法】

1回1本(30g)を首から足底まで皮膚にくまなく塗布し、塗布後12時間以上経過した後に入浴、シャワー等で洗浄、除去する。

1週間あけて少なくとも2回の塗布を行う。治療初期に一過性にかゆみが増悪することがある。

【副作用】

皮膚炎、末梢性浮腫、錯覚、等

③外用薬:クロタミトン

(商品名:オイラックス®クリーム10%)

【作用】

かゆみを抑える。作用機序は不明

【使用方法(疥癬の場合)】

首から足底まで皮膚にくまなく塗布し、塗布後24時間経過した後に入浴、シャワー等で洗浄、除去する。これを5～6日間繰り返す。スミスリンローション塗布中は使用しない。

塗布直後、軽い熱感を生じることがあるが、通常短時間のうちに消失する。

【副作用】

皮膚の刺激感、接触性皮膚炎、等

※妊婦、授乳婦、小児の使用については、医師にご相談ください。

疥癬診療ガイドライン(第3版)参照